

ボストン・グローバル・フォーラム（BGF）における 林大臣ビデオメッセージ

藤崎大使、パターソン教授、御列席の皆様、本日は、お招きいただきありがとうございます。日本国外務大臣の林芳正です。故安倍元総理と元総理の功績を記念するシンゾー・アベ・イニシアティブの機会にメッセージを寄せる機会を頂き、光栄に存じます。

今日私たちは、国際秩序を根幹から揺るがすロシアによるウクライナ侵略に直面するなど、歴史的な転換期にあります。また、力による一方的な現状変更の試みのみならず、経済的な影響力の不透明・不公正な行使により自らの戦略的利益を実現しようとする試みにも直面しています。その上、AIの飛躍的な進歩や世界におけるデジタル化の一層の促進も、私たちに変革の必要性を突きつけています。

このような中、本日への会合の御招待を頂き、私は自らに問いました。「これらの新しい挑戦に対処するために日米が協調した努力を行っている中、日本と米国にはいかなる役割が期待されているのだろうか。」

第一に、自由貿易の下で経済成長を遂げてきた日本にとって、開放的でルールに基づく安定した国際経済秩序を維持・発展させることは極めて重要です。特に、インド太平洋地域を中心に、自由で公正な経済圏の拡大が経済的繁栄をもたらしつつ、長期的な安全保障上の大義があることを、誰よりも理解していたのが故安倍元総理でした。

TPPを前進させることに今も日本は完全にコミットしており、米国のTPPへの早期復帰も期待しております。更に、昨年5月、

ここ東京で立ち上げられたインド太平洋経済枠組み（IPEF）を重視しております。我が国は、IPEF のパートナーとの交渉において、早期の具体的な成果につなげられるようリーダーシップを発揮します。

日米が同志国とも協力しながらルールに基づく国際秩序の維持・発展と各国の経済安全保障の確保に取り組むべきとの考えの下で、昨年7月に、初の経済版「2+2」を開催しました。

デジタル分野に関しては、1月の日米首脳会談でも、安倍元総理が提唱した「信頼性のある自由なデータ流通（DFFT）」を推進していくことで一致しました。多国間イニシアティブにおいてデータ流通の共通ルール作りを主導していきます。

第二に、我々同志国自身の強靱性を強化するのも重要です。同志国でサプライチェーン強靱化を進め、日米間で半導体のみならず、バイオ、量子及びAI等の重要技術の育成や保護に向けて協力していきます。実際、日米間では、最先端分野での様々な共同研究・開発が進められております。

特に本年は、日本がG7議長国、米国がAPEC議長を務める年であり、議論を主導し、行動していきたいと考えています。

安倍元総理が生前にお話になったとおり、日本は開かれて、民主主義であって、かつ法を尊ぶ国々の最も有力な一角を占めながら、世界の平和と繁栄に、力を尽くしてまいります。本日お集まりの皆様にとって、フォーラムが実り多いものとなることを祈念いたします。